

【令和3年度研究テーマ】新型コロナウイルス感染症の流行を含む、様々な社会的状況（高齢化、定年延長等）を踏まえた、これからの時代の自治体運営について

令和4年2月2日
総務委員会報告資料

1 背景

ライフスタイルの多様化など社会的状況の影響を受け、自治体の活動は様々な課題を抱えています。それに加え、新型コロナウイルスが流行し、さらに困難な状況に直面しました。これらの状況を受け、豊田市区長会役員会からの諮問を受け、これからの時代の自治体運営を考えるべく、その課題と解決策等を研究することとしました。

2 現状・課題

(1) 自治体を取り巻く社会的状況

東日本大震災を契機に、近隣住民との助け合いや支え合いが重要な役割を果たすことが広く再認識され、また超高齢社会においても、その必要性が注目されています。

しかしながら、災害も高齢者介護も先のこととしたい地域住民にとって、自治体の存在は遠く、SNSがあれば、隣人との付き合いは不要と思われることが多いのが現実です。また、令和2年から続く新型コロナウイルス感染症の流行によるライフスタイルの変化も大きな影響を及ぼしていると考えます。

<自治体を取り巻く社会的状況>

- 定年延長による地域活動に入る年齢の高齢化
- 共働き世帯の一般化 ○世帯の縮小 ○集団→個人への意識変化
- コロナによりテレワークが拡大するなどライフスタイルが多様化
- GIGAスクールに代表されるデジタル化の急激な進行

(2) 豊田市の自治体の状況

① 令和3年度 自治体実態調査「自治体の課題について」

自治体の課題として、多くの自治体が「高齢化」（1位）や「役員の担い手不足」（2位）を課題と認識しています。この結果は、3年前の調査と同様でした。

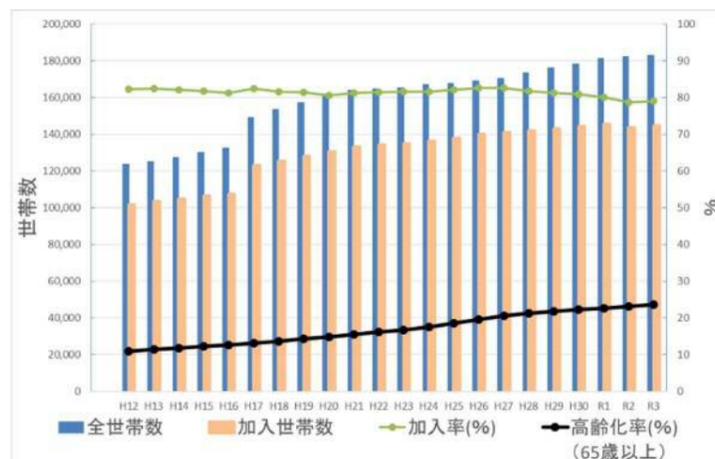
② 豊田市区長会の取組

これまで、区長・役員の担い手不足への対応、被災時の高齢者対策、若者の定住促進、区長会の在り方の整理など、多くの自治体が認識している課題をテーマに掲げ研究をしてきました。その対策として、市外転入者への自治体加入促進チラシの配布、宅建協会との協定による自治体加入促進、自治体加入促進ハンドブックの配布を行っています。また、各自治体が地域課題の解決に向けて取り組んだ事例について、全市で情報共有しました。

③ 高齢化率と自治体加入率（H12～R3）

豊田市の高齢化率は上昇しており、H28 に超高齢社会に突入し、R3 には 23.58%が 65 歳以上となっています。

また、豊田市住民の増加に伴い、加入世帯数は増加していますが、自治体加入率は年々減少し、R3 自治体加入率は 78.99%です。



3 具体的な課題と解決策

区長が負担に感じている上位課題を以下のように分けました。役員会との合同研修の内容も踏まえて、解決策について意見交換を行いました。主な意見・取組は裏面のとおりです。

<自治体の課題>

| 自治体内部の運営・事務について | 区民や地域団体との関わりについて |
|-----------------|------------------|
| 自治体内の会議・総会の運営 | 役員の担い手の確保 |
| ふれあい行事（夏祭り等）の運営 | 住民の自治体活動への参加促進 |
| 行政への協力事務・書類作成 | 自治体と地域団体との連携 |

その要因の主なものとして、コロナ対応で区長の負担がさらに増えていることや、定年延長により役員のなり手を探すのに苦勞をされているという声が多くありました。また、市への協力事務を負担に感じている区長も多く、負担軽減支援を必要としていました。

<課題解決のための取組>

特徴的な点としては、メールやLINE等のデジタル技術を用いて、自治体内の連絡や行政とのやりとりに活用して、事務の効率化を図っている自治体が多数みられたことです。一方でこれから検討したいという自治体もあり、デジタル技術の活用には自治体間で差がありました。

その他、これから検討したい取組としては、区民や地域団体と業務を分担できる体制づくりや、地域のことを知って関わってもらうための情報発信や情報共有の取組、市の経済的補助の拡充への働きかけがあげられました。

4 まとめ（これからの取組について）

自治体が課題と捉えている内容に対し、解決策のポイントを自治体と市に分けて、以下のとおりまとめました。

<自治体の課題解決策のポイント>

| 自治体 | 市 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・区民や地域団体との連携と分担 ・地域情報の発信と共有 ・デジタル技術の有効活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・行政への協力事務の削減 ・補助金等による経済的補助の拡充 ・左記の取組への支援 |

これらのポイントを踏まえた取組の検討がされることにより、以下のような地域の姿が実現され、令和の時代に合った持続可能な自治体運営・活動がされることを期待します。

<目指す地域の姿>

- ・特定の個人や団体が担うのではなく、多様な個人や団体が主体となる地域活動
- ・地域住民が地域のことに関心をもち、よく知り、関わりやすい自治体活動
- ・新しい技術や取組による、効率的・効果的な自治体運営
- ・見直しや分担による、負担の少ない区長業務

しかしながら、自治体は組織の性格や役員任期が短いことから、個々での改革は進みづらい現状もあります。そのため、上記の課題解決策のポイントや目指す地域の姿を踏まえた取組に対し、区長会全体での取組や、市の協力が不可欠だと考えます。

本研究結果を市にも提示し、来年度以降、共に検討がされる必要があります。

◆印は、コロナ状況下での課題・取組です。



(i) 自治区内部の運営・事務について

| | | | |
|------------------|--|---|---|
| <p>議・総会の運営</p> | <p>1. 自治区の会 ・会議などの資料の作成に時間がかかる。 ・区長の引継ぎがほとんどなく、紙の資料を渡されるのみで、就任直後は手探りになり、時間がかかる。 ◆コロナでも安全にできる会議・総会を考えるのに時間がかかる。 ◆昨年度はコロナで何もやっておらず、参考にできるものがない。</p> | <p>○会計報告資料は、会計ソフトやエクセルで作成・管理している。 ○資料作成は、区長だけで行うのではなく副会長と会計など、役員で手分けして行っている。 ○スマホを使って事前に会議資料を配信し、会議時間の短縮を行っている。</p> | <p>◎Zoomを使ったオンライン会議に移行する。</p> |
| <p>(夏祭り等)の運営</p> | <p>2. ふれあい行事 ◆コロナで通常どおりの行事はできないため、検討や調整時間が増加。特にアイデアを出すのに苦労している。 ◆行事中止などの案内状を協賛企業にだす必要があり、その通知文の作成と配布に時間がかかる。 ◆コロナのこの先の状況が不明なため、行事計画を立てても無駄になる可能性があり、モチベーションが上がらない。</p> | <p>○コロナを機に、行事の整理等、自治区の活動内容を見直した。 ○イベント業者への行事運営の委託を検討している。 ◆コロナのため、通常どおりの行事は開催せず、防災グッズの配布や抽選会を行った。 ◆大人数で集まることを避けるため、二部制で行事を開催した。</p> | <p>◎コロナ状況下の行事について、単独自治区で開催手法や実施の有無を判断することが難しい、また隣の自治区が何をしているかよく分からないので、自治区の状況を気軽に情報交換をできる場や、そういう情報が掲載されている場があるとよい。</p> |
| <p>務・書類作成</p> | <p>3. 行政への協力事 ・市への工事要望書の作成は、現場の写真を撮りに行って、要望書を作成、印刷してなど、作業が多く、時間がかかる。 ・様々な種類の書類があり、新任区長には分かりづらく対応に時間がかかる。 ・工事の立会いなど、業者との打合せに時間がとられる。 ・区長便による市からの紙資料が多く、確認・判断するのに時間がかかる。</p> | <p>○市への書類の作成は、他の役員や事務員に役割分担をしている。 ○工事要望書を出したが対応されなかったものは、翌年度4月1日に再申請をすぐ出せるように、エクセルで状況管理を行っている。 ○支所とのやり取り、各種申請もできるものはメールで行っている。 ○役員のグループLINEを活用し、書類作成は区長、現場の写真撮影は他の役員が行っている。</p> | <p>◎紙資料は煩雑なので、区長便など市からの通知はメールにする。 ◎紙資料の受渡しだけでなく、パソコンにデータ保存するなど区長業務の引継ぎを見直す。 ◎工事要望の回答が年1回では少なく、年度途中で区民対応も必要であるため、市は回答の回数を増やしたり、いつでも進捗が確認できる体制をつくる。</p> |

(ii) 区民や地域団体との関わりについて

| | | | |
|---------------|--|---|---|
| <p>の確保</p> | <p>4. 役員の担い手 ・区長になるまで、会計や副区長など、数年間自治区に係わらなければならぬこととなっているため、役員になりたがらない。 ・働きながらでもできる体制が必要。働き方改革による定年延長の影響で、役員をやれる人がいない。 ・若者の自治区離れにより、役員をやってくれる人がいない。 ・大きな役をやってくれる女性が少ない。</p> | <p>○具体的な策がなく、行事等で関係づくりに力を入れている。 ○役員内でトラブルにならぬように、役員を依頼する際には、仕事内容(区長の場合は当て職含め)をきちんと説明をしている。 ○区長業務の削減、役職数の見直しを行った。</p> | <p>◎市から自治区役員に対し手当を出す。 ◎自治区役員職を会社員のように職業化する。 ◎女性会や子ども会、ジュニアクラブと普段から連携したり、60代の地域住民と懇親の場をもつなど、役員候補となる住民との関係づくりに力を入れる。</p> |
| <p>の参加推進</p> | <p>5. 住民の自治区活動へ ・行事に参加したくない等の理由で自治区を脱退する若い世帯がいる。 ・高齢化により、自治区活動への参加者が減少している。 ・転入者の行事等への参加者が減少している。 ・行事等についての自治区からの情報発信(回覧板など)の到達率が低い。</p> | <p>○子どもが喜びそうなお菓子やおもちゃを配布する行事を実施し、保護者の行事参加を促す。 ○子ども会(ジュニアクラブ)や高齢者クラブと連携して行事を開催している。 ○地域の掲示板を定期的に更新し、情報発信を行っている。 ○自治区たよりやホームページで、地域の活動を積極的に広報している。 ○自治区の活動内容を掲載したパンフレットを作成している。</p> | <p>◎行事等の地域活動の情報をホームページやSNSなどで情報発信して、若い方を含めより多くの方に見てもらおう工夫をして、地域の活動を知ってもらう。 ◎住民に対する自治区加入のメリットを整理する。 ◎草刈機の使い方講習会を開催するなど、地域活動に興味をもち、参加できる区民を増やす。 ◎高齢者の外出を補助するため、高齢者お出かけ支援に関する勉強会を行う。</p> |
| <p>団体との連携</p> | <p>6. 自治区と地域 ・地区区長会・地区コミュニティ会議・民生委員児童委員協議会・地域会議・地域学校共働本部など、他団体との連携や、役職兼務が大変。</p> | <p>○LINEを使用し、地区区長会や地区コミ、自主防災会の情報共有を行っている。 ○様々な会議の開催日を同一の日に行っている。 ○同じような行事やイベントは、他団体と共催で実施している。</p> | <p>◎様々な団体の役職を少数の人で割り振るのではなく、多くの住民が少しずつ担当する。 ◎区長その他団体の役職兼務は慣例によるものが多いため、各団体と必要性を整理する。 ◎地区区長会や地区コミなどでLINEグループをつくり、連携しやすい体制をつくる。</p> |